



出雲大社昇殿祈禱

出雲大社

やつあしもん

「八足門」内での

特別参拝

正月三が日などの特別な日や御祈禱を受けた方以外は入ることができない御門内で特別にご参拝いただける貴重な機会です



催行日カレンダー
はこちらから

《参加料》
お一人様(税込) **5,000円**

※未就学児無料 ※要予約

神祇殿(宝物殿)入場券付き
記念品進呈



出雲大社御本殿の歴史

「天下無双の大廈（二つと同じものが無い壮大な神殿）」と称えられる御本殿は、悠久の歴史の中でその度々の御造営遷宮と御修造遷宮を繰り返し、今にその姿を受け継いできました。

現在の御本殿は延享元年（1744）に御造営されており、昭和27年に国宝に指定されました。

御本殿の高さは8丈（24メートル）にも及び、「大社造」と呼ばれる日本最古の神社建築様式を今に伝えています。その特徴は切り妻、妻入りの構造で、平面は九本の柱が田の字型に配置された正方形の間取りとなっています。その中心には心御柱と称する太柱があり、その正面向かって右側の側柱との間は板壁となって殿内が仕切られ、この壁の奥に大国主大神が御鎮座されている御内殿（御神座）があります。

従って、御神座は御本殿と同じ南向きではなく、西向きになります。

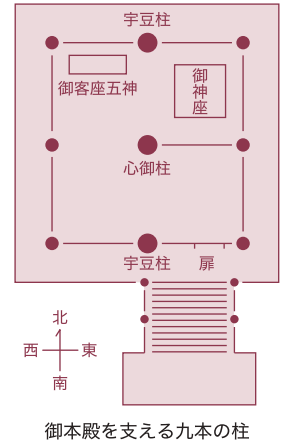
御内殿の前室には板壁に接して御客座があり、天之常立神・宇麻志阿斯訶備比古遲神・神産巢日神・高御産巢日神・天之御中主神の別天神5柱の神をお祀りしており、又、中心の柱である心御柱の近くには大国主大神の御子神である和加布都努志命（牛飼神）がお祀りされています。

古代には3本の大木を鉄輪で束ねて1本の柱とし、高さ16丈（48メートル）の御本殿でありました。

千家國造家（出雲大社の宮司家）に伝わる古代御本殿の平面図「金輪御造営差図」が、その壮大な御本殿の容姿を今に伝えています。

平成12年には境内より、古代御本殿の御柱が「金輪御造営差図」そのままに3本束ねの姿で発掘され、今の世に顕現しました。

引用：出雲大社HP



ルート



八足門内特別参拝の流れ

- 1 勢溜の大鳥居
- 2 千家尊福公銅像
- 3 祓社
- 4 松の参道(松の馬道)
- 5 ムスビの御神像
- 6 手水舎
- 7 祈禱受付
- 8 拝殿昇殿・祈禱
- 9 八足門内特別参拝
- 10 境内巡拝(神祇殿など)

※天候の状況や、祭礼に伴う規制等によりルートを変更する場合があります



催行日カレンダー
はこちら



《参加料》お一人様(税込)5,000円 ※未就学児無料 要予約 《所要時間》最大約100分 ※すべて徒歩となります。《集合時刻》8:30(受付) 《集合場所》佳雲ロビー

企画

TSK さんいん中央テレビ